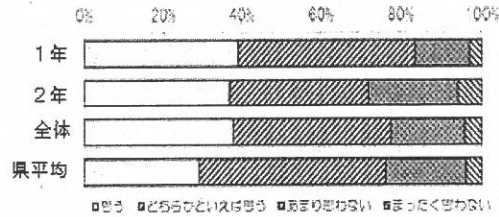


1 研究主題

「学び合い」が位置付いたアクティブ・ラーニングの日常化を図る授業づくり

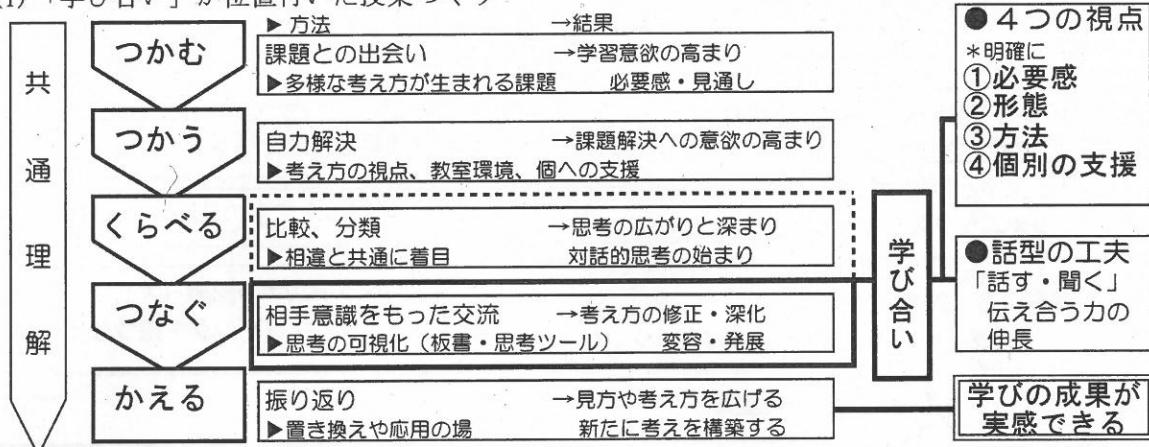
2 研究主題の設定の理由

H28 県学習状況調査の生徒質問紙で、「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表する学習活動に取り組んでいるか」に関して、肯定的評価が77.3%であった。本年度の生徒授業アンケートから、「学び合い」の場において、自分の意見を友達に伝えることについて、肯定的評価が、まだ69%と低く、さらに生徒間での伝え合う力を養うことが必要と感じている。そこで、「学び合い」を効果的に位置付けた日常的な授業実践を通して、確かな学力の育成に向けて教員が授業改善に取り組むことが重要であると考え、本研究主題を設定した。

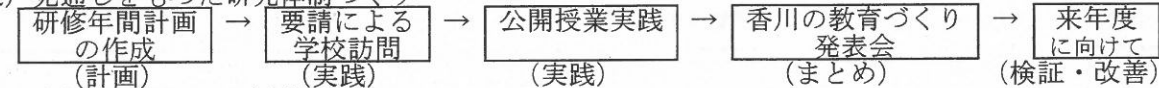


3 研究の具体

(1) 「学び合い」が位置付いた授業づくり



(2) 見通しをもった研究体制づくり



- 全教員年間2回の授業公開
外部講師を招いて研究協議を通して、汎用的な取り組みを探り、その共有化を図る。

(3) 学習指導案の法則化

- 教科をこえた授業づくりを進め、教員の授業力向上につなげる。
●単元観 ①学習指導要領との関連、②生徒に「付きたい力」、③単元の価値について示す。
●生徒観 生徒に「付きたい力に関する現状」「単元の学習内容に関する関心・意欲」を示す。
●指導観 付きたい力を実現するための指導方法を示す。「学び合い」の工夫点について下線で示す。
●学習指導過程 「つかむ」「つかう」「くらべる」「つなぐ」「かえる」の「授業展開」を位置付ける。

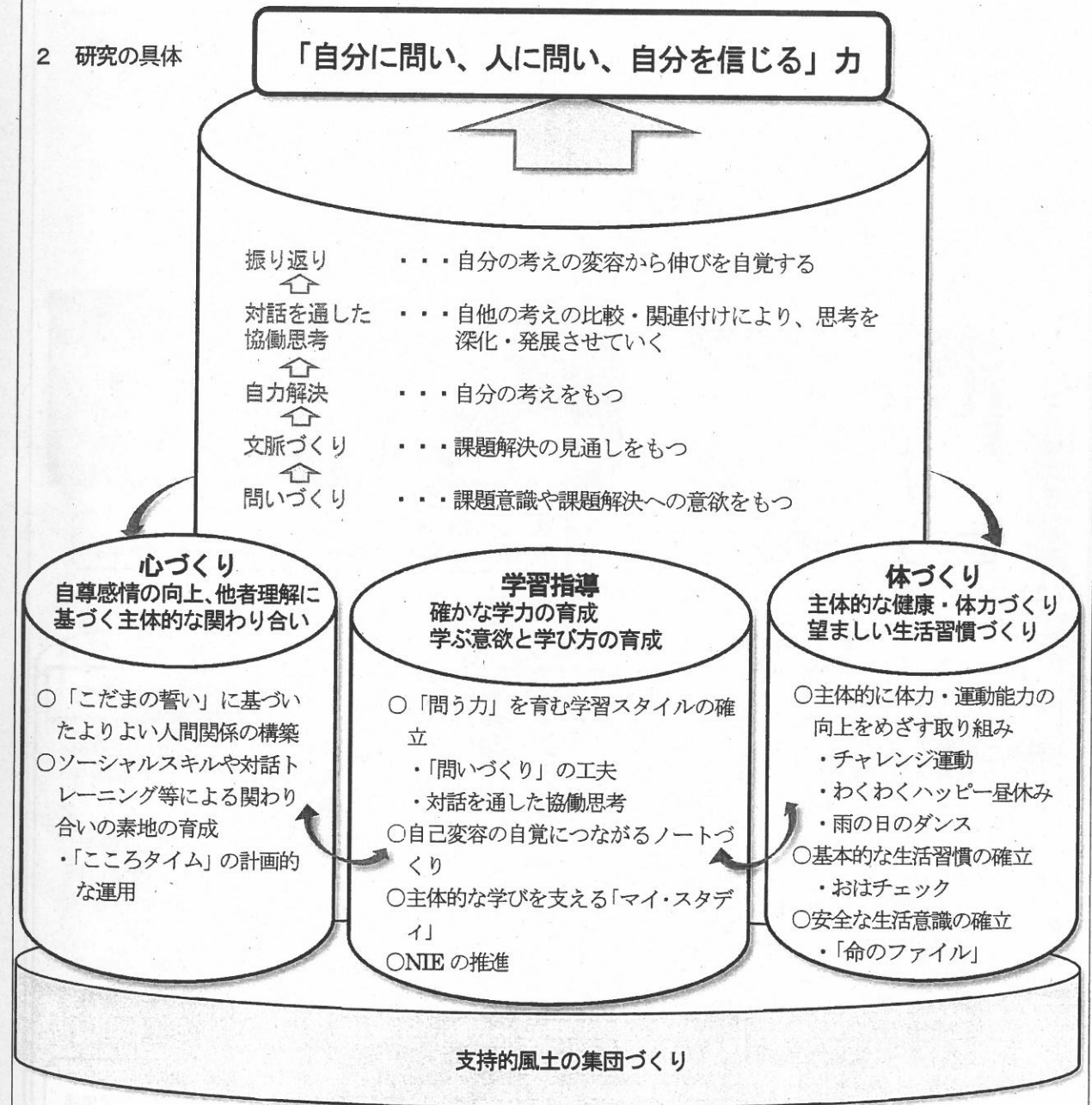
(4) 「学び合い」の意義を確認・理解した授業づくり
年度初めの全校集会で、「学び合い学習で大切にしたい3つのこと」について生徒・教員共に共通理解を図る。



1 研究主題

「自分に問い、人に問い、自分を信じる」力を育てる学びの創造
— 子どもが対話を通して主体的に学びを追究していく学習の在り方を探る —

2 研究の具体



3 研究の検証及び改善の手立て

- (全国学力・学習状況調査、県学習状況調査の分析、教員への授業づくりに関するアンケート調査より)
○「問いづくり」から「振り返り」に至る一連の学習スタイルで低学年から学習を積み重ねることにより、学び方が身に付き、見直しをもって学習に取り組めるようになってきた。
○「問いづくり」を工夫することで「知りたい」「やってみよう」という「問い」が自然に生まれ、児童の学習意欲が高まった。
○対話の目的を明確にして視点を絞った対話を行うことが、思考を深化・発展させていくことにつながった。
◇自分の考えがもてない児童や話すことが苦手な児童への有効な支援の在り方を探ってきたい。